

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議  
(第14期 第1年 第3回 第2日)  
ぎじろく  
議事録

1 日時 2022(令和4)年11月13日(日) 午後2時00分～5時00分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 17人

李 智永、イトウ ユリカ キヤレン、野田 ユワリー、ヒリストバ  
ガブリエラ、フィゲイロ キム リリアン、ブリツイナ タチヤナ、ペレーラ  
ラヒル サンケータ、マイ アサエル、ムハマド アイマン アリフ、楊 子宜、  
ユデク マルチン、李 歡歡、李 晨、刘 晨、林 芳安、レイバーマン  
ケビン、ロディーニ フェデリカ

(2) 事務局

佐藤 課長、佐藤 課長補佐、森下 担当係長、植 主任、五十嵐 職員、  
高橋 専門調査員

4 傍聴者 1人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2022年度第3回第2日を開催する。今日はアブドウルさん、真さん、グエン チュンザンさん、グエン ヌー フォン ザンさん、タパさん、ドウマヤスさん、バさん、尹さん、劉 英杰さんが欠席だ。それでは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いする。」

(事務局佐藤課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし) それでは、議事に入る。まずは、オープン会議についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

フィゲイロ委員「先月、欠席したのだが、コメントーターはどのような人か。」

ペレーラ委員長「大学の先生やその分野に詳しい人に来てもらうことが多いそうだ。」

ヒリストバ部会長「メンタルヘルスケアに詳しい人が来てくれるということによいか。」

事務局高橋専門調査員「安心生活部会のテーマは、メンタルヘルス、産後支援制度、外国籍のひとり親支援の3つなので、メンタルヘルスに特化しているというよりは、もう少し広くソーシャルワークが専門の方がよいかと思っている。」

ロティーニ委員「交流会についてだが、どのようなかたちで行うのか。座って話をするのか。」

ペレーラ委員長「立って話すかたちだ。ほかに何かあるか。(なし) では、次に実行委員会で話し合ったことについて李歆歆さんから報告をお願いする。」

李歆歆副委員長「今日、話し合ったこととしては、まず自己紹介のところではいろいろな意見が出たが、1人ずつ自分で自己紹介することになった。ただ、時間がないので簡単な自己紹介をお願いする。次に、役割分担について、実行委員会の中でそれぞれの担当を決めた。あとは、交流会で市民祭りのときのように写真や飾り、動画やBGMが流せるとよいという意見が出た。できるかどうか、事務局に確認してもらうことになった。」

ペレーラ委員長「それでは、代表者の役割分担について決めたいが、まずは当日、参加できないという人はいるか。（なし）では、順番に自分の希望の役割を教えて欲しい。（希望を確認）人数のバランスも問題なさそうなので、これで決定だ。欠席の人には事務局から確認をしてもらおう。次は部会審議だ。全体会の再開は16時35分からということでお願いする。」

### 【安心生活部会】

ヒリストバ部会長「それでは、部会を始めたい。今日はメンタルヘルスケアについてだ。まずは、事務局から今日の部会審議について説明をお願いする。」

（事務局五十嵐職員が資料3に基づき説明）

ヒリストバ部会長「何か質問はあるか。（なし）それでは、議事に入りたい。まずは、事務局から資料の説明をお願いする。」

（事務局五十嵐職員が資料3-1～3-4に基づき説明）

ヒリストバ部会長「何か質問はあるか。」

ロディーニ委員「資料に相談内容別の件数があるが、メンタルヘルスはどこに入るのか。」

事務局五十嵐職員「基本的には「医療」に入ると思うが、ほかの相談内容でもメンタルヘルスにつながることはあると思う。」

フィゲイロ委員「自分や周りの経験だが、たとえばブラジル人だと1人で我慢せずに、心理士と相談して治療が必要だったら精神科に行くのだが、日本だと「助けて」と言わずに、自分で解決しようとする。留学生で病気だとわかると「国に帰って」と言われるかもしれないし、仕事を探している人が鬱病だと仕事を探せない。それと、通訳のあるようなクリニックは保険が使えないかもしれないので、お金がないと治療ができないと感じてしまう。軽い鬱ならよいのだが、深刻になってくると国に帰るしかなくなるので、そうならないようにどう助けられるのか、何か調査結果などがあれば知りたい。」

野田委員「MICとAMDAは有料か。」

事務局五十嵐職員「MICは病院が依頼するので、外国人の方は基本的には無料だ。

AMDAも通話料以外は無料だ。」

野田委員「あとは、いろいろなサポートはあるのだが、こういった情報が知られていない。どうすれば多くの人に知ってもらえるか。それと、私自身も相談員をしたことがあるのだが、やはり国民性のようなものがあって、国によって対応

の仕方が違ったりもするので、その国の国民性に合った対応ができるとうい。」

ヒリストバ部会長「資料の最後に審議の方向性がまとめられているが、その中にもあるように、すぐに病院ということではなく、気軽に相談ができるようなつながりや安心できる場所をつくるための交流の機会についても検討するとよいかもしれない。」

ロディーニ委員「川崎市に住むときに区役所で登録すると思うが、そこで渡される資料の中に相談窓口の情報は載っているのか。」

事務局五十嵐職員「川崎市に住む外国人の皆さんへ」という冊子を渡していると思うが、その中に相談窓口の情報は載っている。」

楊委員「多言語の相談窓口は、なるべく多くの人に知ってもらえるように工夫することが大事だと思う。資料を見ると、認知度は低いが、相談件数は多いので、利用率は高いのかなと思う。相談したときに、どのような対応をしているのかがわかるとよい。ただ案内するだけではなく、いろいろなことを詳しく教えてくれたりすると親切でよい。」

李智永委員「みなさんも言うとおりの、ワンストップセンターが周知されていないことが一番の課題かなと思う。たとえば、市からの何かを郵送する際の封筒などにQRコードを印刷したりするのはどうか。」

事務局五十嵐職員「代表者会議の募集案内の中に入れてる。」

ロディーニ委員「資料に自立支援医療制度とあり、申請をしなければならないが、これは病院で紹介してくれるのか。」

事務局五十嵐職員「病院や区役所などでも、制度の紹介や説明はしていると思う。」

ヒリストバ部会長「そろそろ時間なので、メンタルヘルスケアについてはここまでとする。次回の審議テーマは産後支援制度についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局五十嵐職員が資料のリクエストについて説明)

ヒリストバ部会長「何か質問や意見はあるか。」

フィゲイロ委員「経験者としては、子どもを産んで、いろいろな不安があるのだが、産後がいつまでなのか知りたい。それと、調査があるかわからないが、母乳で育てたいけれど困っているという人がどのくらいいるのか知りたい。」

楊委員「川崎市の外国人市民が年間どのくらい出産しているかわかれば知りたい。それと、私も利用したことがあるのだが、産前産後家庭支援ヘルパー派遣

事業はそもそも日本人もあまり知らないようなのだが、利用者数とどこで情報を案内しているかが知りたい。それと、もし可能であれば保健師の方にどのような需要があるのかを聞けると助かる。」

ヒリストバ部会長「ほかに、資料のリクエストはあるか。（なし）それでは、今日の部会はここまでとする。」

## 【情報・社会部会】

イトウ部会長「それでは、部会を始めたい。今日の審議テーマは日本語学習の場についてだ。まずは、事務局から今日の流れについて説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料4に基づき説明）

イトウ部会長「何か質問はあるか。（なし）では、議事に入る。事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料4-1～4-8に基づき説明）

イトウ部会長「何か質問はあるか。」

レイバーマン委員「単純な質問だが、識字と日本語学習の違いは何か。」

事務局高橋専門調査員「日本語学習は、シンプルに言葉として日本語を学ぶという意味だ。それに対して、識字という場合は、言葉を学ぶことで社会に参加できるとか、自己決定できるようになるとか、そういったところまでが学習の視野に入ってくる。」

レイバーマン委員「どのような教材が使われているのか。」

事務局高橋専門調査員「教室によってさまざまだ。国際交流センターでは、独自のオリジナルテキストを使っている。」

李晨委員「川崎市として多くの取組を実施しているということはわかったが、認知度に関しては課題があるのではないかと。資料でも53.6%の人が「知らない」と回答している。広報には改善の余地があるのではないかと。市民館にパンフレットを置いたりしていると思うが、あまり行く機会がない。ホームページもよく見るわけではない。私としては、入国管理局であれば、外国人が定期的に必ず行かなければならないので、効果的ではないかと思う。」

林委員「平成13年に文化庁が行った調査で、日本語教室への要望として「通える時間を増やして欲しい」というのが一番多かった。先ほども出たオンライン学習を活用すれば、市民館まで行かなくても学習ができるようになるのではないかと。」

いか。もう1つ、ボランティアについてだが、たとえば大学と連携して日本語教育を学んでいる学生に参加してもらえれば、需要と供給が一致する部分もあるかと思う。」

ペレーラ委員長「大学生に関わってもらおうといっても、そもそも大学生が関わりたいと思っているかは別だ。大学生も忙しい。関わりたいと思っているなら、すでに関わっているのではないか。」

李歆歆副委員長「日本語を勉強できるところのリストはあるが、日本語でしか対応していないので、そもそも日本語ができない人にはその第一歩が難しいのだと思う。時間帯がうまく合わないという人も多いと思う。」

事務局高橋専門調査員「もちろん、ニーズについては理解しているが、ニーズがあるからといって何でも対応できるわけではない。供給側には供給側の事情があるので、提言としてまとめるときにはうまく折り合いをつけられるところを見つける必要がある。」

イトウ部会長「そろそろ時間なので、日本語学習の場についてはここまでとする。次回の審議テーマは情報についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料のリクエストについて説明)

イトウ部会長「何か質問や意見はあるか。」

林委員「情報がたくさんある中で、アンテナを張っていないと情報を受け取れないというのはそうだと思うが、どこかに情報が集約されていないとアンテナをたくさん張らなければいけないので大変だ。情報を集約することが重要ではないか。」

ブリツィナ委員「インターネットで検索するとき、何と入力するかによって結果が違って来る。検索エンジンの最適化はされているか。ホームページをリニューアルする予定があるとのことなので、そのあたりのことがわかれば知りたい。」

ペレーラ委員長「林さんの情報を集約するという意見だが、何かそういった施設のようなものをイメージしているのか。」

林委員「どういったかたちがベストなのかは、これからみなさんと議論していきたいが、ポータルサイトやLINEのようなものをイメージしている。チャットボットみたいにキーワードを入れれば、関連するものが出てくるようなイメージだ。」

ユデク委員「川崎市には電話で何でも対応してくれる相談窓口がある。」

劉晨委員「資料のリクエストだが、転入者用のウエルカムセットについて、どのようなものを渡しているのかを知りたい。」

イトウ部会長「みなさんが困った具体的なシチュエーションと、そのときにどうしたのかを出しながら議論しないと、具体的な課題が見えてこない。」

ペレーラ委員長「ホームページのリニューアルのプランについて知りたい。」

イトウ部会長「それでは、時間を過ぎていたので、今日の部会はここまでとする。全体会の再開は16時35分だ。」

## 【全体会】

ペレーラ委員長「全体会を再開する。まずは、部会報告だ。情報・社会部会からお願いする。」

イトウ部会長「今日は、日本語学習の場について審議した。主な意見としては、市民館での日本語クラスの認知度が低い、学習の場を増やすというよりは学習の機会を増やす、Zoomなどを活用するとよいのではないかと、といった提案が出た。次回は、情報について審議する。」

ペレーラ委員長「何か質問や意見はあるか。（なし）では、次は安心生活部会の報告をお願いします。」

ヒリストバ部会長「今日は、メンタルヘルスケアについて審議した。主な意見は次の3つだ。1つ目は、仕事ができなくなったり、探しにくくなったりということがあり、メンタルヘルスに関する相談がしにくい。2つ目は、どこに相談をすればよいかわからない。相談窓口としてはワンストップセンターがあるが、あまり知られていないので、もっと周知が必要だ。3つ目に、文化の違いによって相談の仕方が変わってくる、というものだ。次回は、産後支援制度について審議する。」

ペレーラ委員長「何か質問や意見はあるか。（なし）では、次は実行委員会報告だ。まずは、交流イベント実行委員会の報告をお願いします。」

ヒリストバ部会長「先週末に行われた市民祭りに参加していただいたメンバーと事前準備にご協力いただいたメンバーのみなさん、本当にありがとうございました。とても賑やかで、とてもよいイベントになったと思う。事務局からメールがあったかと思うが、アンケートへの回答をお願いします。」

ペレーラ委員長「私からもみなさんにお礼を申し上げます。参加、協力していただいたみなさん、たくさん準備して下さった実行委員会のみなさん、ありがと

うございました。次に、ニューズレター実行委員会の報告をお願いする。」  
李晨委員「今日は2022年度の最後の実行委員会だった。1年間の活動の振り返り  
をして、各記事の担当者に意識したことや、考えたことなどを確認した。」  
ペレーラ委員長「これで、本日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いす  
る。」

#### 【事務連絡】

- ・オープン会議の広報について

ペレーラ委員長「これで、今日の日程は終了だ。次回の会議は、12月11日、  
日曜日、中原市民館でオープン会議を開催する。これで、2022年度第3回  
第2日の会議を終わりにする。」